

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

民政クラブ

代表者名

加藤学

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和 6年 3月 29日提出

活動年月日	令和 5年 7月 11日 (火) ~ 令和 5年 7月 14日 (金)	
氏名	柴田敏光、佐藤哲朗、原紀彦	
用務先 及び 内 容	1 7月 11日	用務先 沖縄県竹富町
		内 容 頑張る地域応援プロジェクト事業について
	2 7月 12日	用務先 沖縄県石垣市
		内 容 石垣島スポーツコミッションについて
	3 7月 13日	用務先 沖縄県浦添市
		内 容 浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」について
	4 7月 14日	用務先 沖縄県那覇市
		内 容 行政手続きのオンライン化について
備 考		

“交友笑歩”

友と交わり笑顔で歩むという事で、絆を深める。地域の一体感を持つことが大事であるという事を4文字で表している。



集合写真



いんのた会館



竹富町役場

【質疑応答】

Q：人口減少が止められないようだが、移住者への補助はあるのか？

A：島内に不動産屋が無いためマッチングできない。また空き家はあるが所有者がわからない。島内には中学校までしかないので、高校進学は島を離れなければならない。アパートが建てられない。

Q：島の伝統を壊さずに誘客を考えているのか？

A：グランピング・キャンプ・映画の撮影などを考えている。リゾートホテルを誘致するのは慎重になる。

島内に入島することに対して、訪問税を検討している。

Q：記念誌は購入できるのか？

A：記念誌は一冊2,000円で購入できる。

※ 現在、入島料は、任意で300円（宮島では入島税を実施している）
入島税の使用として、環境保全に使用されている。

本市への反映 (意見・課題など)

【柴田敏光】最近の傾向として、近所のお付き合いが薄れており、地域のつながりが失われている。竹富島では郷土愛が強く、まとまりのある地区であることを実感した。行政との連携もしっかりしていることは確認できた。ただ予算確保が非常に難しいことが見受けられた。クラウドファンディングでの資金集めも考えるべきではないかと思った。本市も故郷の思いが強く持てる街づくりを考えていくべきである。また、観光施設には環境保全に対しての税をかけていくべきではないかと提案する。

【佐藤哲朗】竹富島では人口は少ないものの「頑張る地域応援プロジェクト」にも応募がある。また、いんのた会館の建設や記念誌の制作などの資金にも住民からの寄付が充てられていることや定年後にUターンで帰ってくる方など、住民の強い郷土愛を感じた。加えて、まつりを通じて芸能・文化の継承にも取り組んでおり、大いに参考になった。本市において、農業、工業、商業、教育などで様々な施策を実施しているが、郷土愛の醸成に繋げ将来の盛り上げの種まきになることを期待する。

【原紀彦】沖縄の伝統的な町並み全体が文化遺産になっている竹富島では、伝統文化継承に着目したまちおこしが進められている。「頑張る地域応援プロジェクト」は、まちおこしを積極的に進める活動を後押しする事業として有効と感じた。Uターン・Iターンへの空き家空き地を活用するなど活動への工夫を取り入れようとしている。ブランディングが課題とのことだが、国や県との事業の連携によるメリット等参考になる点が多く、後人に文化を継承していく今後の取り組みをさらに注視して行きたい。

視 察 者	柴田敏光・佐藤哲朗・原紀彦
視 察 日 時	令和5年7月12日(水)10時00分～12時00分
視 察 先 ・ 概 要	沖縄県 石垣市 【人口】47,954人('23年6月時点) 【面積】18.19km ²
視 察 内 容	石垣島スポーツコミッションについて
選定理由(目的)	2023年3月に設立された石垣島スポーツコミッションは、スポーツツーリズムを通じた地域の活性化や、より健康的で活力のあるスポーツ振興を目指している。 スポーツには交流人口の拡大や経済活性化に寄与する大きな力があり、石垣島のコンテンツ創出事業やスポーツ合宿・キャンプ誘致推進事業などからスポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性を学び、本市の取組の参考にする。
岡崎市の現状と課題	本市のスポーツはスポーツ推進計画に基づき、中央総合公園をスポーツツーリズムの拠点として、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進を図ってきたが、近年社会環境の変化に伴い様々な視点から、子どもから高齢者までの様々な年代の人・障がいを持つ人などを含めた幅広い市民を対象としたスポーツ活動の推進が求められている。 また、地域に適したスポーツを資源として新たなサービスを創出することもこれからの地域の活性化に繋げる重要な取組と考える。
視 察 概 要	<p>【石垣島スポーツコミッション設立】 2023年3月18日(土曜日)に、石垣島スポーツコミッションが設立 石垣島スポーツコミッションは、石垣市、石垣市観光交流協会、石垣市商工会、八重山ビジターズビューロー、石垣市体育協会、八重山郡スポーツ協会、石垣市スポーツ推進委員会、石垣島アスリートクラブで構成された組織。 スポーツツーリズムを通じた地域活性化とスポーツ振興を目指すもので、各団体のネットワークやノウハウを生かした連携を推進。</p> <p>【石垣市スポーツ推進計画】 生涯にわたって心身ともに健全な生活を営む上で、スポーツの果たす役割はますます重要となっている。市民がいきいきと健康で暮らすことができ、目標や夢に向かって思い切りスポーツに挑戦できるなど、躍動感を持ちながら日々を過ごすことが大切。 「市民スポーツ」の理念をこれからも継承するとともに、スポーツから広がる様々な価値や効果を発揮させることにより、市民をはじめ、訪れた人も含めて、あらゆる人が輝き放ち、活力のある「島」の実現を目指す。</p> <p>【中央運動公園施設】 駐車場 160 台 ○野球場 敷地面積：20,909 平方メートル 施設規模：両翼 99.5m・中堅 122m 収容人数及び観客席：(スタンド全体) 8,000 人 (内野) 2,200 人 (外野) 5,800 人 ※2023年2月1日(水)～2月26日 千葉ロッテマリーンズ春季キャンプ 経済効果は約 6 億 4 千万円</p>

野球場



○屋内練習場

敷地面積：3,582 平方メートル

施設規模：アリーナ 53.5m×53.5m

ジョギングコース幅 3m×240m

トレーニング室 145 平方メートル

※ロッテキャンプ時は、野球用人工芝を敷き対応

※ブルペンやバッティングゲージも完備



○陸上競技場

敷地面積：29,000 平方メートル、

施設規模：400Mトラック 8レーン（公認検定取得）

収容人数及び観客席：（メインスタンド）2,700人

（サイド・バックスタンド）11,000人

※現在は改修工事中



○水泳プール

敷地面積：2,882 平方メートル

施設規模：（50m）幅 24m 8レーン

水深 1.1m ~ 1.3m

収容人数及び観客席：2F メインスタンド 100人



○テニスコート

敷地面積：6,483 平方メートル

施設規模：9面

【総合体育館施設】 駐車場 190台

○メインアリーナ

敷地面積：1,950 平方メートル（46.5×38.5）

天井高さ 16m

施設規模：バスケットコート 2面

バレーボールコート 3面

ハンドボールコート 2面

バドミントンコート 8面

卓球台 12面、2F ランニングコース 185m



○サブアリーナ

敷地面積：1,222 平方メートル（47×26）

天井高さ 10.7m

バスケットボールコート 1面

バレーボールコート 3面

ハンドボールコート 1面

バドミントンコート 4面、卓球台 6面



【Q&A】

Q1：スポーツを週に1回以上実施している成人の割合を令和11年度までに65%を目指す目標の理由を伺う

A1：国の目標でもあるが、スポーツ推進計画に基づいて設定している

Q2：スポーツコミッション組織を運営するにあたり、予算はどこから出ているのか伺う

A2：国（スポーツ庁）の補助金で運営している。現在は行政主導だが将来は民間へ移行を考えている

Q3：千葉ロッテマリーンズの春季キャンプは、単年契約なのか伺う

A3：単年で契約している

Q4：石垣市はスポーツがとても盛ん。アドバイスがあれば伺う

A4：将来ある子どものために推進をしている。市民も同様の思いなので進めやすい。今後、本田圭佑さんの会社と連携協定を結んで事業を進めて行く

Q5：誘致の取組を伺う

A5：全国でスポーツコミッションを実施している。各種イベントに参加してアピールを続けて行く



【柴田敏光】石垣市のスポーツコミッションは、市民の健康寿命を延ばすという目的も含め、年齢は関係なく多くの市民利用があるので本市も充実した内容を考えていくよう提案する。また市民の声を反映できるように取り入れていくことも重要である。

石垣市では、プロ野球球団を誘致することで球団からの設備投資など費用として、毎年6億円を超える提供があるという事である。キャンプに足を運ぶファンなども多く誘客できることから経済効果は抜群である。本市も中央総合公園を所有していることから色々なスポーツ競技の団体を受入れることが可能ではないかと考える。ただ、プロまたはオリンピック競技の誘致となると設備投資も必要であるので、本市にとってプラスになるようしっかりとして検討をすべきである。

本市への反映
(意見・課題など)

【佐藤哲朗】石垣市ではスポーツの誘致による経済効果として主なものは、プロ野球のキャンプで6億4千万円、石垣島マラソンで4億円、石垣島トライアスロンで4億円と大きな効果を出している。また、プロ野球のキャンプを誘致するために施設の充実を図り、市民にも有効に活用いただいているとのこと。加えて、スポーツを通じて、健康増進や医療費の削減、人材の育成など、スポーツ推進計画に基づいた取り組みの成功事例として大いに参考になった。本市においてもスポーツ大会の招致やスポーツMICE事業の推進などスポーツ推進計画に折り込まれているが、岡崎市の置かれた環境や資源を最大限に活かした取り組みが必要と感じた。

【原紀彦】石垣市のスポーツコミッションは市民の健康と交流促進に非常に重要な役割を果たしていると感じた。訪れた施設はアクセスが良く、さまざまな年齢層や興味を持つ人々に対応しており、市民のスポーツ参加意欲を高める重要な存在だと考える。

特に、スポーツコミッションの設立によって窓口が統一され、受付から各種施設の予約

や紹介などがワンストップで行われることは、合宿やキャンプの誘致を拡大する上で非常に有効だと感じた。本市において、地域の魅力向上や健康増進に向けた施設のあり方や、試合、イベントの誘致など、地域に適したスポーツを資源として新しいサービスを創出するための取組が必要である。

ご説明いただいた、石垣市企画部スポーツ交流課の皆様と撮影



視 察 者	柴田敏光・佐藤哲朗・原紀彦
視 察 日 時	令和5年7月13日（木）13時30分～15時00分
視 察 先 ・ 概 要	沖縄県 浦添市 【人口】115,499人（'23年6月時点） 【面積】19.48km ²
視 察 内 容	浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」について
選定理由（目的）	浦添市では、発達障がいに対する社会的な理解が進み、行政に対して相談や支援を求める声が大きくなる中、幼少期から成人期まで一貫性のある継続した相談支援ができる拠点施設「ピアラルうらそえ」が開所。 本市においても今後ますます福祉サービスの需要は高まることが予想されており、地域と共にサポートを充実させ切れ目のない支援について学び、本市の取組の参考にしている。
岡崎市の現状と課題	本市の障がい福祉は、福祉環境の変化に伴う利用ニーズの変化や、福祉サービスの需要に対応するため平成29年に福祉の村がリニューアルされ、発達に心配のある子を早期に見出し、早期に適切な支援につなげる発達支援の拠点機能を有したこども発達センターが開所された。 高まる需要に対し、相談・医療・療育サービスを一体的に行い、子どもの頃から大人になるまできめ細かく支援を推進することが求められている。
視 察 概 要	<p>【ピアラルうらそえの概要】</p> <p>1. 事業の背景</p> <p>発達障がいに対する社会的な理解が進み、行政に対して相談や支援を求める市民の声が大きくなる中にあり、浦添市には総合的かつ専門的な相談支援を行う窓口がなく、幼少期から成人期まで一貫性のある継続した相談支援ができる拠点施設の整備を求める声が寄せられていた。</p> <p>また、親子通園による通所事業のみならず、地域で暮らす障がいを持つ子どもや家族への相談、関連施設への援助など地域支援の強化を図る児童発達支援センターの設置に関して、国の基本指針に基づき進めて行く必要があった。</p> <p>浦添市は、人口約114,000人で2030年まで微増していく傾向にあり、年間出生数は約1,200人、人口千人当たりで全国平均6.57人よりも4.0人多くなっているが、年少人口・生産年齢人口の減少化は一昨年頃から始まり、福祉サービスを必要とする世帯数は増加しており、今後ますます母子保健と児童福祉の向上を推進しなければならない都市といえる。</p> <p>また、健診後に保健師が発達をフォローする割合は、1歳半健診17.8%に対して3歳健診では26.8%と上昇している傾向から、スクリーニングの機能が果たしているか課題があり、早期発達支援体制を整備する必要がある。</p> <p>2. 施設の概要</p> <p>○目的 障がい者（児）に対する幼少期から成人期までの一貫性のある継続支援及び地域の相談支援強化に資する、障がい福祉関連複合施設を設置する。</p>



- 名称 浦添市障がい福祉関連複合施設 ピアラルうらそえ
- 構造 鉄筋コンクリート造（地上4階）
- 床面積 2,404.15㎡
- 敷地面積 1,884.24㎡
- 用地購入費 170,236,893円
- 工事費 745,320,400円
- 防衛省補助 補助率2/3



3.（指定管理が行う）業務の概要

期間は令和3年4月1日～令和8年3月31日までの指定管理者に医療法人へいあん・社会福祉法人浦添市社会福祉協議会共同企業体が指定。

- (1) 児童発達支援センター事業に関すること
- (2) 障がい者（児）基幹相談支援センター事業に関すること
- (3) 親子通園型発達教室の実施に関すること
- (4) 市長が必要があると認めた事業

4. 運営にあたっての理念及び基本方針

ピアラルうらそえは、子ども・利用者さまひとりひとり「喜び」を何よりも大切にし、幼少期から成人期までの一貫性のある継続支援および地域の相談支援の強化に努める。



5. 施設内容

○そだちのひろば うぐいす

お子さんの育ちや発達に心配があったり、子育てに不安をお持ちの方が親子遊びを通して楽しく関わり方を学び、就園のための準備をしたり、お子さんのからだや心の育ちを促す場になっており、次の支援につなぐ取組を行う。



○児童発達支援センター たんぼぼ

基本的な生活動作の指導、集団生活の適応に向けた療育を行う。地域の保育等への訪問支援も行っている。※利用には受給者証の申請が必要になる。



○浦添市障がい者（児）基幹相談支援センター てだこの森

障がいのある方やそのご家族の日常生活のさまざまな相談を受けている。また、障がいのある方やそのご家族を支援する地域の方や福祉サービス事業所などの関係機関の相談も受ける。その他、電話・FAX・来所・訪問など希望に合わせて対応も可能。



○発達相談クリニック そえ〜る

親子の健やかな育ちを支えることを目的とし、発達検査や診断、療育相談を行う。対象は、主に未就学児から小学校6年生までを対象としている。

【Q&A】

Q1：施設の利用者数を伺う

A1：（昨年度）児童発達支援センター たんぽぽは、920名で延べ2,800名。てだこの森は、700名で延べ2,800名。クリニックは年間2,500名の方が利用されている



Q2：共同体で運営する強みを伺う。

A2：社会福祉協議会には医療はないが地域との連携という強みがある。医療法人へいあは精神医療を備えておりお互いの無い所を補う形で運営している点。

Q3：親子同士の横の連携等はあるのか伺う。

A3：お父さんの勉強会や保育の参加を通じて交流を深めてもらっている。

Q4：外国籍のお子さんも通所されているのか伺う。

A4：中国国籍の方が増加している。色々な言語への対応が難しい状況にある。

Q5：医師の勤務体制を伺う。

A5：医師は常駐で勤務している。診療は木曜日の午後が休診日になっており、その日は健康診断を行っている。

【柴田敏光】浦添市障がい福祉関連複合施設について視察を行った。浦添市の障害福祉複合施設には、小児科・精神障害の医師が常駐しており、利用者にとって安心であり、対象のお子さんに対しても色々と判断が素早く行うことができ、対応も早いことから本市も常駐医師を検討することも必要と考える。また、浦添市の当施設は、障がい者の災害時の避難場所に指定されていることから、障がい者の災害時での受け入れ場所が確保できていることから安心感が持てるので良いと考える。本市も福祉の村を災害時の避難場所に指定することで、障がい者が避難場所を探すことからでなく、素早い避難が可能となるのではないかと考える。

【佐藤哲朗】ピアラルうらそえは、障がい福祉関連複合施設として、発達相談クリニック、基幹相談支援センター、親子通園型発達教室、児童発達支援センター、保育所等訪問事業が一体となっており、切れ目のない支援をひとつの建物の中で提供できる、有益な施設となっていた。岡崎市においてもこども発達センターにおいて総合的に対応していることを踏まえると、自治体として同じ方向性で取り組んでいるものと感じた。ピアラルうらそえの施設長は小児科医として発達障害に熱意をもって取り組まれており、こういった方の存在は事業全体の成果にも大きく影響するものと思われ、その確保や育成が重要と感じた。

本市への反映
(意見・課題など)

【原紀彦】発達障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽に相談できることは、保護者にとって安心ができる体制整備といえる。クールダウンをするスペース「スヌーズ・レン室」などが設置されている面も子どもたちへの配慮が伺えた。こうした受入体制の充実や利用する側の配慮は、本市においても検討して行く必要があると考える。

ご説明いただいた、浦添市障がい福祉関連複合施設「ピアラルうらそえ」の皆様と撮影



視 察 者	柴田敏光・原紀彦・佐藤哲朗
視 察 日 時	令和5年7月14日（金）10時00分～11時00分
視 察 先 ・ 概 要	沖縄県 那覇市 【人口】315,421人（'23年5月時点） 【面積】42.42km ²
視 察 内 容	行政手続きのオンライン化について
選定理由（目的）	那覇市では、近年の日常生活を始めとする社会全体にデジタル技術が浸透している中で、新型コロナウイルスの感染拡大により、外出行動の抑制や密を避けた行動が推奨される状況を受け、国や県の動向を踏まえて、「那覇市DX推進計画」を策定し、その取り組みを開始している。中でも「ぴったりサービス」の開始や総務省から表彰された「通信機器等を用いた中継動画による遠隔検査及びオンライン申請・RPAシステムの導入」など先進的な取り組みを実施しており、その内容について調査する。
岡崎市の現状と課題	岡崎市では令和4年3月に「おかざきDXビジョン」を策定し、行政手続きのデジタル化に取り組んでいる状況にはあるが、現状での取り組みは限定されていることから、対象項目の拡大や市民目線でのインターフェースの構築など、更なる利便性の向上を図っていく必要がある。
視 察 概 要	<p>【行政手続きのオンライン化の概要】</p> <p>1. 事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「デジタルで変わり続けるまち・那覇」を基本理念とした「那覇市DX推進計画」を令和5年3月に策定し、取り組みを開始した。 ● 市民の視点からは「便利さを実感できる」、「安心・信頼できる」、「共にまちをつくる」ことを目指して取り組む。 ● 職員の視点からは「意識を変える」、「業務の仕方を変える」、「働き方を変える」ことを目指して取り組む。 ● DX推進の方針は「デジタル技術の活用」、「利用者目線のサービス」、「デジタル技術の活用による生産性の向上」、「人にやさしいデジタル化」、「安心・安全の担保」、「多様な主体との連携による施策の推進」としている。 ● DX推進にあたっては、まずは行政のDXを重点的に取り組み、まちのDXの受け入れ基盤の整備から始めていく。 ● 計画の推進体制は、部局横断でプロジェクト体制とし、各課に推進員を配置している。また、毎年評価を実施し、2年に一回見直しを折り返しながら進めていく。 ● 人材育成については重要なものと受け止めており、意識改革も含めて体系的に整理し、役割に応じて計画的に取り組んでいく。 <p>2. DX推進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「行かない(スマホからでも手続き可能)・待たない(窓口の混雑緩和)・書かない(入力作業の軽減)」行政手続きにより、市民サービスの向上と職員負担の軽減を目指す。 ● ピッタリサービスでは、転出届、転入予約、保育園・こども園の申込などをオンラ



イン化しており、今後も拡大していく。このオンライン申請システムは職員が内製しており、自ら改善できることが特徴となっている。

- 消防関係では、飲食店等の消防用設備の現場検査を中継動画によりリモートで実施している。また、申請もオンライン化されており、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)が業務日程に自動的に転記している。これにより、24時間届出が可能となると共に、職員と申請者双方の移動時間が削減できるなど、効率化に繋がっている。

【Q&A】

Q1:申請書類記入の際には職員の方に確認しながら入力するイメージがありますが、オンライン入力による誤入力はありますか？また、誤入力を防止するための工夫があれば伺います。

A1:計画の段階から、人間が作業すれば間違いは起こることを前提として、入力内容に応じて入力制限や選択制を折り込んでいる。また、ユーザビリティ評価を実施し、市民の声を反映してシステムを改修しています。

Q2:システムは職員が改修できるとのことですが、どうやって実現していますか？

A2:システムは内製で改修できることを前提として調達しており、システム全体のベースとなる部分と、職員が改修できる部分を分けたシステム構成としています。

Q3:DX推進にあたり専門的知識や経験を持った職員を採用したのか、また、デジタル人材育成の取り組みについて伺います。

A3:外部から登用・採用は実施していません。各課にデジタル化推進員を配置し、職員が安心してDXに取り組める環境としました。また、職員一人ひとりが、DXに必要な性を理解して取り組めるよう、意識付けから始め、役割に応じた人材育成を計画的に実施しています。

Q4:デジタル化推進員の配置や役割について伺います。

A4:各課に1名以上で、デジタルに詳しくない職員も含まれています。判断できる人材を課長が任命しています。通常業務を行いながらでもあるので、業務量がオーバーフローしないよう配慮しています。



本市への反映
(意見・課題など)

【柴田敏光】行政手続きのデジタル化について視察をさせていただいた。スムーズに手続きが行うことができ、業務への負担も少なくなることは最大の効果である。ただ、視察を受けている中で心配される点もいくつか考えられると感じた。①高齢者がスムーズに行えるのか？②現地調査を行わずに点検等を行う事で見落としすることも考えられないか？また並行して何度かに一度足を運ぶことも大事であると考え③システム障害など起こって復旧が遅れる場合の対応法、またすぐに対応する職員・対応する能力など対応策をしっかりと構築しておく必要があるがなされているのか？などがあるが、今後どんどん改善し幅広くデジタル化していけるように本市も取り組んでいただく事を強く望む。

【佐藤哲朗】行政手続きのデジタル化については、岡崎市でも取り組んでおり今後も継続して充実と改善を図っていくものと受け止めている。今回、那覇市では基本理念の中で「市

民・事業者の視点」を優先し、システムの一部を内製化し課題の改善をスピーディーに行っているとのことだった。市民からは「行政手続きは分かりにくい」とのご意見をいただくケースが多いので、ユーザーの視点から課題を速やかに改善していく考え方とシステムは大いに参考になった。

【原紀彦】那覇市では DX の推進により、将来的には「誰もがデジタル技術の恩恵を受け、便利で豊かな那覇」の実現を目指すために「那覇市 DX 推進計画」が策定された。特に計画の推進体制については、各課に推進員を配置して部局横断でプロジェクト体制としている点と、毎年評価を実施し、2 年に一回見直しを折り込みながら進めていく点は、デジタル人材の育成推進における重要な位置づけと感じた。本市において、デジタル技術やデータを活用した住民サービスの向上や業務効率化に向けた取り組みの参考にしていく。

